

Wri News Letter 77

NO

77

1979年1月25日 戦争抵抗者インター日本部 大阪市あべの区旭町2-12-2 ウィズ

七尾火電阻止・北電退散祈願

寒念佛行動

表 白 文

井沢幸治。土田一三

夫、末代無知の在家止住の男女。名無く、権勢無き徒と雖も。口、阿彌陀仏を深く頼み
 参らせて。一向一心只管、仏助け給へど。念仏修行祈り申さば。必ず必ず聞き届け給ふ
 べしと云へり。さらば越し方、六歳の箇。七尾に火電建てむとする北陸電力の極悪
 深重、剽殺兼凶。漁人の怨嗟哀傷の類を聞かず。遂に去歳鳥目二日、トクサ湾埋立てむ
 としての抗拒敢死の象徴にあひて果す。さらに、歳初松飾未だ払わざるに。再び三塗
 の箇に強征して肉塞に迷う。縣、警察、保安庁また修羅に同じて驕僭放逸。悲しくも哀
 れと云つに限りなし。さらば衆の不信積重の罪果。必定免れがたしと雖も。願はく
 ば、われらが一心一向。三品の懺悔もて弥陀に帰命し。茲に寒念仏の結願奉りはべれば。
 百千億万、不可思議の願力を以て。四海平安。北電退散。何卒、七尾火電建設の諸行一
 切を取止めさせ給へ。今よりは悪縁不信の衆も哀愍納受して宥し給へ。一濟衆生、阿彌
 陀仏の光明に頼み参らせて。ただただ信心歡喜させ給へ。あなかしこ。あなかしこ。

宇利乃奈加乃乃伊古止葉 映天爾乃里越

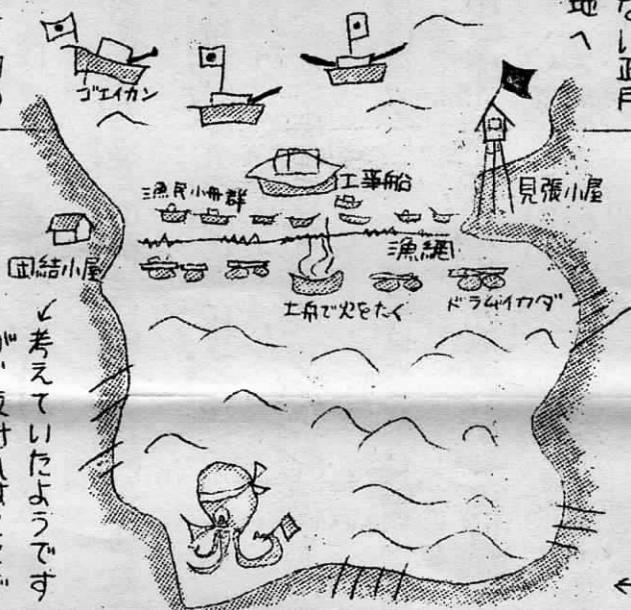
おがまから 金沢

1979年元旦、電気がない正月

を求めて、七尾はトクサ現地へ行ってきました。気多大社（能登一の宮）で、北電退散の破魔矢を仕入れて、三つの団結小屋を訪問したわけです。

正月ぐらいは現地でも各自・家でのんびりしているのではと思っていたのですが、さにあらず。元旦早々、鵜浦青耳団が総会を開いていましたし、二日は、鵜浦、三室を守る会総会、三室青耳団の団結小屋南きと、目つきがちがうのです。

それもそのはず、トクサ埋立工事再開の認可が、1月8日からありついでいるのですから。北電や県や海上保安庁は、勝負を知事遊後（2月4日）



の強制代執行にかけ、8日からの工事は形だけにとどめて、ブイの2、3も落とさせてもらえたらと

一気に勝負をかけるつもりでいます。7日には全員が海上に出て、阻止の総げいこをやり、8日から一週間は県評士の0人の支援の下、1コでもブイをおとしたら、てっいていって斗争構えです。

考えていたようですが、反対派はここで

それに對し、敵サンも、全国から巡視船をかき集めて威圧したり、佐世保のように放水訓練をやったり強気みたいですが、内心は、四三のような事態になれば、火電がパーになるかとセンセンキョウキョウらしいです。保安庁は、山本本部長に「山本さん、あんた出てこんどりてくれんか、逮捕せんなんことになると、火電はパーヤ」と泣きついたらとか。

現地の人たちも、「今度はワシが別荘（ムシヨ）に行く番ヤ」と、逮捕を前提に明るく決意を固めています。

わたしたち金沢部隊も北電に押しかけてガンバリます。大阪の仲間もよろしく。

七尾火力電
埋め立て再開
反対派600人強

埋め立て工事か
八日流血の惨事
を招いた昨午
2日以來、9月
に再開された
...巡視船ハ
隻の船が出動
中には保安部
（リコアターなど
め正午ころ引
れた。（読売）

反対派漁民は計
百人か三ヶ所
船にのりこみ
船を張り、船
上でも燃やし
た。...

か下「ソレはソレは、こんな雪の中をぐるぐるうたまでございませう。修行の至らぬことをいたしました。なむあみだぶ……」

うしろで林くんがお経をひらいてよみはじめ、みんなが唱和している。「どちらの手で」はい、土田二三と申します。在家の名もないものでございませう。歩みだすと、じつとうしろを見送ったまま。辻をまがったとたん、みんながぶつと吹き出す。一ということだったのである。

★ ★ ★

⑩ 16日、ひるごろ目ごめて、すぐ机に向つた。それから夕方までの数時間、杉山副知事と原谷北留社長宛に送る表白文を、一字一字お経のつもりで、心をこめて書いた。

奉書紙をひろげて、窓から覗うつてくる四日ぶりの眩しい雪暗れの中で、ゆつくり筆を運んでみると、ふと、金沢への来がけにあつたあれこれ中途半ばなごだわりが、すつかり消えてしまつてゐるのに、気付いた。

「どう具体的に、実行が七尾との連帯になるの」とふう君がきいたとき「想像力で」としかいまは答えられないなあ」と云つた。

が、そのときのぼくの問題としてあつた「七尾との連帯」市民への「アロパガンダ」非暴力直接行動としての試みなどという云訳はいつのまにかぼくのおもひから遠いものになつていた。そしてこの二日向ぼくのやつたことは、編笠をかぶり、ケサをかけ、珠数と鉦を手にしてなむあみだぶを唱える。ただそれだけだつた。という以外はない。

にもかかわらず、念仏実行が終つたあとのいま、ぼくの内の何となく充足感というか、自分のなかへひびきかえつてきた余韻は、それが七尾現地の日々と、決して無縁でなかつたことを確信させる。

それは「夜行」で偶然にも杉山氏や警官たちへの役らの情報はおくみろがるだろう。に出会つたこと、

さらに北留社長へ送る表白文やピラ二百枚が七尾にとけられ、多分何人かの人によんでもらえる。だろうこと。などの具体的な伝わり方をも含めて、ほかから念仏修行そのものが意味するものを、おのずから示唆する、と云えるだろう。

⑪ それにしても、ぼくらの実行に対して、杉山氏はいささかイヤなおもいがした。というところがあつたにらがない。そしてぼくらの心裡に、イヤガラセの気がすがすこしもなかつた、と云えばウソになるだろう。だがまた実行は、北留や杉山氏をおとしの誹談する目的をもちまてない。ことも明らかすぎるほどはつきりしている。

それだからこそ尚、杉山氏らにとつて、文句をつけるにつけられず、対症的対策を打とうとしてどうしようもないいらだちで、二重に屈折したイヤなおもいになるというところがあるかもしれない。

★ 2月11日PM 2: 部落解放センター講演のあとデモ。元号法制化反対・反靖国・反天皇制闘争西集会。

★2月11日 東洋非暴力直接行動AM11於合同集会所。街頭へ入ります。あと、元号法制化反対関西集会に合流するかとしれません。

だが、もつとよく考れば、そのイヤなおもいのそもそも起因となるものは、いま役らが七尾トクサの漁師たち日々おしつづけていることから出てきている。むしろそれは役ら自身のなかに内任し、役みずからのうちから出てきたものに外ならない。

それゆえ役らが、一たび改悛確意するとしたならば、ほくらの奥行はイヤがらせどころか、それそのまま、たちまち共にへ信心敏光して南無阿弥陀仏を唱える。念仏同行となることもまちがいないのである！

そして、このこと、杉山氏の向題とその関連への省察一ひとつからでも引き出すことが出来る、多様な教訓を示唆は、これからの運動において、(今まではほとんど見落し又落させてきた部分でもあるゆえに)もつとも必要としているものと云わねばならない。その故だけでも今回の小さな行動は、ぼくにとつて決して一と

き、単にめざらしく新しい経験だけに終るものではない。(付記)

のルポは一面的かつげく個人のおもいにどわったものとなつた。念仏奥行へと導いてくれた井原さん、帯在中とても世話になったFさんMさんもうひとりのMさんDさんへありがたうを！ 土田

あめとがキ

ふう

☀️ 一念發起して、今年こそはWRーニユースの編集は私がやる、とはりきつてつくり出したんだけど、金沢に同行したり、アルバイト、それにどび入り原稿が入って

半分くらいのところまで、やっぱり向井さんやるり子ハンに手伝ってもらうことになった。紙面も一新して、といきごんでいたわりにはいつもと変りばえしなにかんじです。刃号を期待して下さい。

その意味でも仲間からの投稿を待っています。送ってね。

エネルギーを機説の編纂を
あはく。1月31日PM6。金沢観光
会館大集会所。講師 尾野其の郎さん

☀️ とびり原稿というのは、反公害住民ひろばが毎月やってる。

なにかなんでも反村シリーズ講座でひよんなことから「私の非暴力直接行動」を、この私かしやべるハメになったからだ。なにとぞ、あんまり人が集まりませんように。と、いいつつ宣伝しちやおうかな

☀️ 27日・PM六時半・太融寺です。直接行動4号をつくりはじめたと書いたら、さっそく注文がボツボツきはじめた。2月末には出したいものです。

印刷費が約二十万？円かかるので予約注文たのみます。

☀️ 余白がなくて、らん外に書いた集案内、びび来て下さい。

☀️ 合同集会場にどんわがつきました。集会がある時は通じます。

TEL353・8956 デス

講演と映画 2月4日PM1時
原案を通して人間「社会」生活を考える
講師 市川定夫さん
名古屋栄町 YWCA にて

★集会所の問合せは 044-819-819

送金は 振替 大阪三三七三七 ウリシヤパン 向井孝